



自治会福祉活動 事例集 part.2

<目次>

ご挨拶	1 頁
伊野部町（東地区）	2 頁
奥町（東地区）	4 頁
三俣町（東地区）	6 頁
塚本町（南地区）	8 頁
川並町（南地区）	10 頁
宮荘町（北地区）	12 頁
和田町（北地区）	14 頁
五個荘地区住民福祉会議 委員名簿（令和4年度）	16 頁



ご挨拶

五個荘地区住民福祉会議では、令和3年度に地区社会福祉協議会、まちづくり協議会、民生委員児童委員協議会などの五個荘地区の福祉関係団体、教育機関、商工会、子育て支援活動やまちづくり活動に参加するみなさまとともに「第3次五個荘地区住民福祉活動推進計画」を策定しました。

この計画では、第1次、第2次計画のスローガン「だれもが人財 みんなで支え合うまち 五個荘」を継承し、「人財を育もう」、「場を創ろう」、「しくみを創ろう」の3つの目標を掲げ、それぞれ5つの指針を設けました。

令和4（2022）年度は、この計画を推進する初年度であり、五個荘地区住民福祉会議ではそれぞれの目標ごとに推進チームを設けて、活動を進めて参りました。

いわゆる「コロナ禍」が3年に及ぶなか、令和4年度も五個荘地区の各自治会での事業や活動が止む無く中止されることも少なくありませんでした。

しかし、新型コロナウイルス感染を「正しく知り、正しく恐れ」て向き合い、各自治会で「できること」を考え、「新たな形」でのふれあいサロンや異年齢や世代間交流等の福祉活動の取組みが再開、あるいは新たに始まりました。

そこで、「しくみを創ろう」推進チームでは、「自治会福祉委員会の活動を推進しよう」という指針のもと、昨年度に引き続き五個荘地区内の7自治会にご協力をいただき、自治会福祉活動にかかる意見交換を行い、その内容を踏まえて「自治会福祉活動事例集（part.2）」を作成しました。

このたび、ご多用のところ、訪問に応じて下さった、伊野部町、奥町、三俣町、塚本町、川並町、宮荘町、和田町の自治会長をはじめ、民生委員・児童委員、福祉委員、各関係者の皆様にお礼申し上げます。

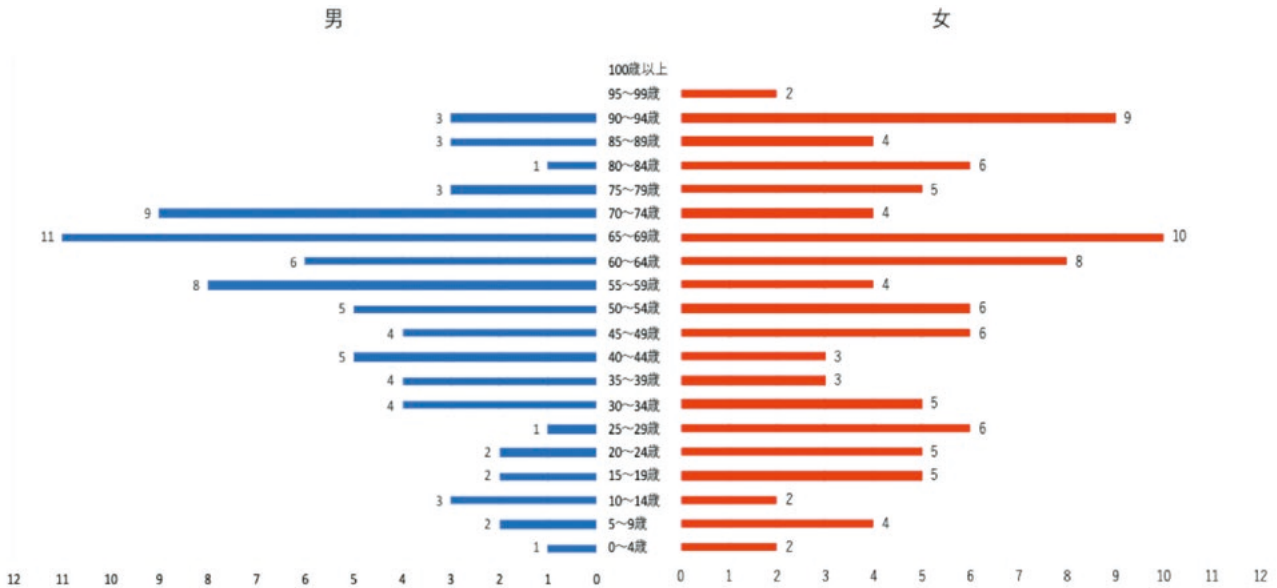
身近な自治会における「福祉委員会」活動の大切さを各関係機関、団体が共有していくため、この事例集を活用していただければ幸いに存じます。

令和5（2023）年3月

五個荘地区住民福祉会議

代表 深尾 浄信

◆人口：176人（男性77人・女性99人）
 ◆世帯数：65世帯
 ◆高齢化率：39.8% ◆年少人口比率：8.0%
 （令和4（2022）年5月31日 東近江市市民課）



伊野部町の人口ピラミッド

1. 自治会福祉活動の推進体制

「福祉健康推進委員会」（正副委員長は評議員）を設けて、自治会福祉活動を推進している。福祉委員は2名で、委員会の構成は以下のとおり。

【委員長】評議員 【副委員長】評議員

＜構成員＞スポーツ推進員(2名)、民生・児童委員(1名)、福祉委員(2名)
 人権まちづくり推進員(2名)、老人会(1名)、子ども会(1名)
 神祭係(1名)、婦人会(1名)、ワング(1名) 計12名



老人会、子ども会等広く団体から要員を選出

2. 自治会福祉活動、集いの場

1) ふれあいサロン

概ね65歳以上の人を対象として正福寺、草の根広場で開催している。サロンを単独で開催するのは難しいので、お寺の念仏講、尼講の毎月の例会に併せて開催している。サロンの運営スタッフは民生・児童委員、福祉委員、有志の方2～3人である。

伊野部町のまとまりの「強み」は氏子、檀家および自治会員がほとんど一致していることである。そのため、念仏講、尼講を合同開催するときには50人ほどの参加になる。

多い時は年間10回開催。内容は、例えば、写経(4月)、折り紙教室(5月)、体操(6月)、「ちょっときてーな講座」の講演(7月)、敬老会・音楽会・小学生の「てらこや」と合同事業(9月)、コースターづくり(10月)、大根炊き(12月)、新年会(1月)、福祉講座(2月)、フラワーアレンジメント(3月)とバラエティーに富む。

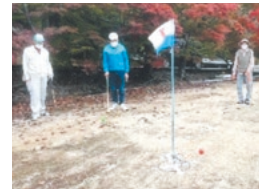
令和3年度はコロナ禍のため中止したが、令和4年度は6月に開催し、約20人

氏子と檀家と自治会員がほぼ一致



会場の正福寺

が参加。その時は保健師と歯科衛生士による「フレイル予防」の話を実施。11月にグランドゴルフを実施し、7名参加。12月に大根炊きを実施し、参加者到大根炊きを持って帰ってもらった。



グランドゴルフの様子

2) 敬老会

コロナ禍のため敬老会は中止した。その代わりに、子ども会に協力をしてもらって、子どもが作った「折り紙」と建部神社の御神符を長寿祝いの記念品に添えて、子どもに民生・児童委員、福祉委員が付き添って、敬老会の皆さんに配って回った。対象者は36人。

子どもが作った折り紙と御神符を添えて子ども会が記念品を配布

3) 独居高齢者等見守り訪問活動

民生・児童委員が担当している。毎月1回対象者4名に粗品を持って訪問している。「待っていたわ〜」と迎えてくれて、話し込むこともある。

4) 集いの場—ラジオ体操

民生・児童委員の呼びかけで、正福寺の境内を借りて午前7時30分から週3日（火・木・土曜日）ラジオ体操をしている。夏休みは子ども会と一緒に体操をし、年末と1月、2月は寒いので中止している。

正福寺でラジオ体操を週3回開催

赤い羽根共同募金の助成を活用したもので、毎回5~6人ほどの人が参加している。参加者はお寺に歩いていくのも運動になるし、リハビリにもなると参加している。参加者同士が話をすることを楽しみにしていて、「やってもらってよかった」と言われている。

民生・児童委員がラジオ体操を欠席した人を訪問するので、「見守り」の役割もある。ラジオ体操仲間となって日頃から挨拶する関係ができ、「繋がり」を創る場となっている。

3. 伊野部通信

高齢になって外出し辛くなるとテレビで全国のニュースは分かっていても、伊野部町のことはなかなか分からなくなる。そこで、自治会では、平成22年5月から「伊野部通信」を毎月発行し、情報の発信と共有を図っている。令和4年11月で第151号となり、10年以上発行し続けている。

その内容は、伊野部町での役員会の報告、行事の様子および出来事に加え、歴史や暮らしの伝承、フクロウの巣立ちや赤とんぼ等自然や生き物の姿等を紹介する記事が掲載されていて、大変興味深い内容になっている。

毎回役員会にかけて発行しており、「伊野部通信」は伊野部町の暮らしに大切な情報紙であるとともに、歴史を綴る資料となっている。



伊野部通信（第151号）



ラジオ体操の様子

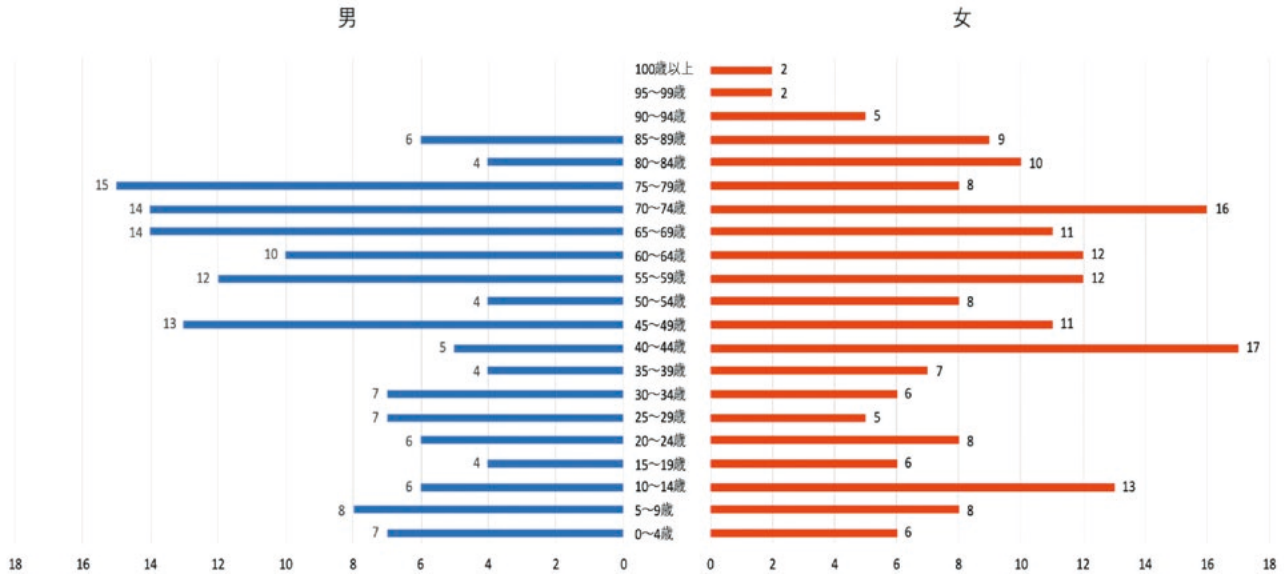


大根炊きの様子（令和4年12月）



大根炊き（令和4年12月）

◆人口：328人（男性146人・女性182人）
 ◆世帯数：103世帯
 ◆高齢化率：35.4% ◆年少人口比率：14.6%
 （令和4（2022）年5月31日 東近江市市民課）



奥町の人口ピラミッド

1. 自治会福祉活動の推進体制

奥町では、自治会活動が福祉活動であることから、あえて福祉委員会や福祉推進委員会は設けていない。

福祉委員は2名で、男性と女性1名ずつである。任期は女性が1年で男性が2年であり、日常的に自治会長や民生委員・児童委員をはじめ、自治会役員と情報共有、情報交換をしている。



自治会活動が福祉活動

2. 繋がりを大切にした取組み

1) ふれあいサロン

自治会文化部（評議員2名が担当）が敬老会とふれあいサロンの企画を担当している。

①敬老会

75歳以上の93人を対象に、奥構造改善センターで余興と軽食を準備する計画であったが、コロナ禍で開催できないと判断。お祝いの言葉を添えた紅白饅頭と商品券を携えて、正副自治会長、民生委員・児童委員、福祉委員が分担し、対象者を訪問して言葉かけをしながらお渡しした。

②ふれあいサロン

年2回開催している。多い時は約50人の参加がある。参加費は500円で、参加者にケーキとコーヒーを振舞い、余興の後におしゃべりをする。今年度（令和4年度）は11月と2月に開催する計画であったが11月はコロナ禍で中止とした。2月は様子を見て開催したいと考えている。

自治会文化部が企画担当

普段のお付き合いからの気づき

2) 独居高齢者等見守り訪問

80歳以上の一人暮らし高齢者は7人いるが、入院や施設入所している人を除くと、近くにきょうだいや子どもが暮らしており、また、日常的に住民同士がお互いに気に掛ける関係性があることから、あえて「見守り活動」という看板を掲げて取り組む必要はない。普段のお付き合いの中の「気づき」を大切にしている。

3) 老人クラブ

友愛訪問を実施している。ふれあいサロンに参加したくない人、参加できない人は友愛訪問が喜ばれる。また、第1、第3、第5日曜日にグラウンドゴルフを開催している。多い時は25～26人が参加している。そして、奥構造改善センターで感染予防対策を施し、月1回、カラオケ愛好会のメンバーが集っている。さらに、年5回、神社の清掃活動を行っている。清掃活動の後に、特殊詐欺防止の啓発活動等も実施している。



奥構造改善センター

4) 子どもを見守り、育む

①見守り隊

自治会の呼びかけで子どもの下校時の安全を見守る「見守り隊」が作られ、現在約10人で活動している。月曜日から金曜日、「見守り隊」のメンバーが2人1組で新幹線の高架の下まで迎えに行く。月曜日と金曜日は1～3年生が先に帰り、4～6年生が後に帰るので、14時40分頃と15時35分頃の2回迎えに行っている。

②子ども会

子ども会と自治会の関わりは強く、お祭りや神社のしめ縄づくり、環境美化の看板づくり、公園の草むしり等の活動を積極的に担っている。毎月第2土曜日には圓光寺^{*1}でお参りし、汗をかくまで思い切り遊ぶ。



圓光寺

③お寺の開放

コロナ禍で子ども達の行き場がなくなってしまったため、昨年（令和3年）から夏休みの朝から夕方まで16日間、圓光寺を子ども達に開放している。

※1 圓光寺は1848（嘉永）元年から1868年（明治）元年まで寺子屋を開校していた。

5) フラワーサークルなでしこ

かつての婦人会活動から「フラワーサークルなでしこ」が生まれた。平成17年から自発的なサークルとして活動を開始し、奥町の公共の場に花を植える活動をしている。現在9人がメンバーとして活動していて、自治会では花代を補助して協力している。

6) 奥村堤の会

「奥村堤の会」^{*2}は、年4回活動を続けていて、毎回20歳代～70歳代までの幅広い年代の会員が活動している。

※2「奥村堤の会」については『人は財 まちの財—東近江市五個荘地区26自治会の活動レポート』に詳しく紹介している。

3. 共同性のなかで

日々の暮らしと自治会活動、各種団体やグループ活動のなかで共同性が培われ、強くなり、住民同士の繋がりが紡がれていく奥町である。

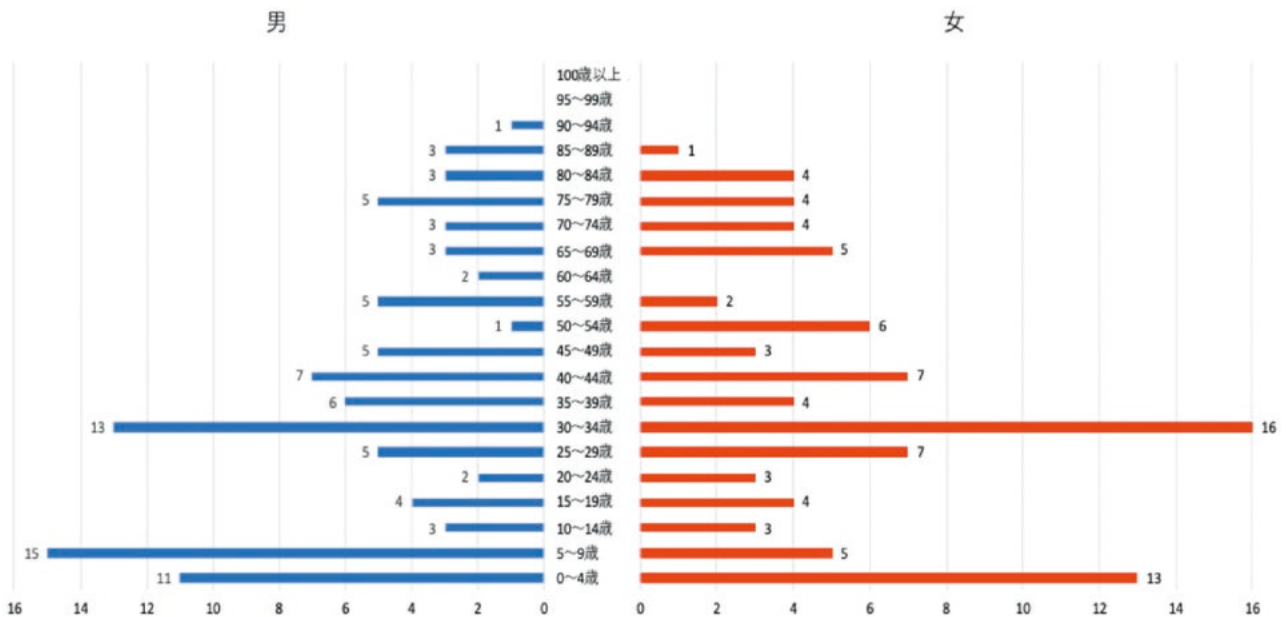


「見守り隊」による見守りの様子（令和5年1月）



カラオケ愛好会の様子

◆人口：188人（男性97人・女性91人）
 ◆世帯数：57世帯
 ◆高齢化率：19.1% ◆年少人口比率：26.6%
 （令和4（2022）年5月31日 東近江市市民課）



三俣町の人口ピラミッド

1. 自治会福祉活動の推進体制

自治会長、副自治会長、民生委員・児童委員、福祉委員が協力をしながら取り組んでいる。何かあれば相談し合って対応している。

2. 自治会福祉活動の取組み

1) なごみ会

自治会館を会場として平成28年12月に始まった会で、誰でも参加できる開かれた場である。コロナ禍の中でも毎月1回、午前中に開催していて、今年で6年目を迎える。

民生委員・児童委員と福祉委員がお茶やお茶菓子を準備し、参加者はおしゃべりに花を咲かせる。毎回10人前後の方が参加し、皆さん楽しみにしている。なごみ会が始まったきっかけは、市社協から「ふれあいミニサロン」の助成が開始されたことであった。

今は、お茶とお菓子で共にひと時を過ごしているが、できれば年2回は食事会も開催できればと考えている。

2) ふれあいサロン

コロナ禍で会食が難しく、また、自治会館が狭くてたくさんの人が集まることが難しいため、現時点では開催できていない。

3) 敬老会

70歳以上の方を対象としている。（今年の対象者は28人）コロナ禍のため集う

ポイント

毎月1回午前中に集う「開かれた」場

お茶とお茶菓子でおしゃべりに花を咲かせる

ことはせず、自治会役員と民生委員・児童委員が分担し、対象者を訪問して記念品を届ける形にした。

(コロナ禍の前は、自治会館にたくさんの人が集まるのが難しいために五個荘コミュニティセンターを借りて敬老会を開催していた。)



敬老会で配布したお弁当とお菓子(令和2年度)

4) 独居高齢者等見守り訪問活動

現在、6世帯(うち、ひとり暮らしは2世帯)を対象に、月1回、地区社協が準備した品物を携え、民生委員・児童委員または自治会長が見守り訪問をしている。(もう1世帯加える予定である。)

5) 「みつまたの道路安心マップ」づくり

子ども会の要望を受け、三俣町自治会独自の取組みとして令和4年度に小学校1年生になる子どもと保護者を対象にして開催した。令和3年8月8日(日)の午前8時に自治会館に集合。自治会長の挨拶の後、警察官の話、マップづくりの活動手順の説明を受けた後、参加者を班分けして自治会館を出発。町内を歩いてみて回り(タウンウォッチング)、自治会館に戻ってマップづくりに取り組む。



自治会館に掲示されているマップ

町内の地図に「青カード」(整備されたところ、安心を感じる場所)、「黄カード」(注意する場所)、「赤カード」(危ない場所、問題のある場所)、自動車が通る道等を地図上にまとめていく。そして、「感想、課題、提案」や「交差点での悪い横断のしかた」をまとめ、「今日からの約束ごと」は「みちをわたるときはとまってみぎ、ひだりをよく見て車がきていないのを見てわたること」である。

参加者は子ども9人、保護者5人、警察官2人、自治会役員4人の20人。フィールドワークで子ども自身の気づきと学びを促す活動である。

3. 小さな“場”の積み重ねで

約半数の世帯が新興住宅である三俣町。若い世帯が多いので、子どもの数も増え続けている。新興住宅の方には「いのちのバトン」を福祉委員が配り、緊急医療情報用紙は自治会長が配り、いざという時の対応の仕組みがあることを伝えている。このことは、この町での暮らしの安心感にも繋がる。

しかし、現役世代は自治会活動に参加する時間をとるのも難しい。住民同士の交流を図るべく運動会を開催していたが、コロナ禍で中止となった。そこで、運動会に代わり、令和4年10月9日にはウォーキング大会を開催し、子どもを含めて14人が参加した。

運動会に代わりウォーキング大会を開催

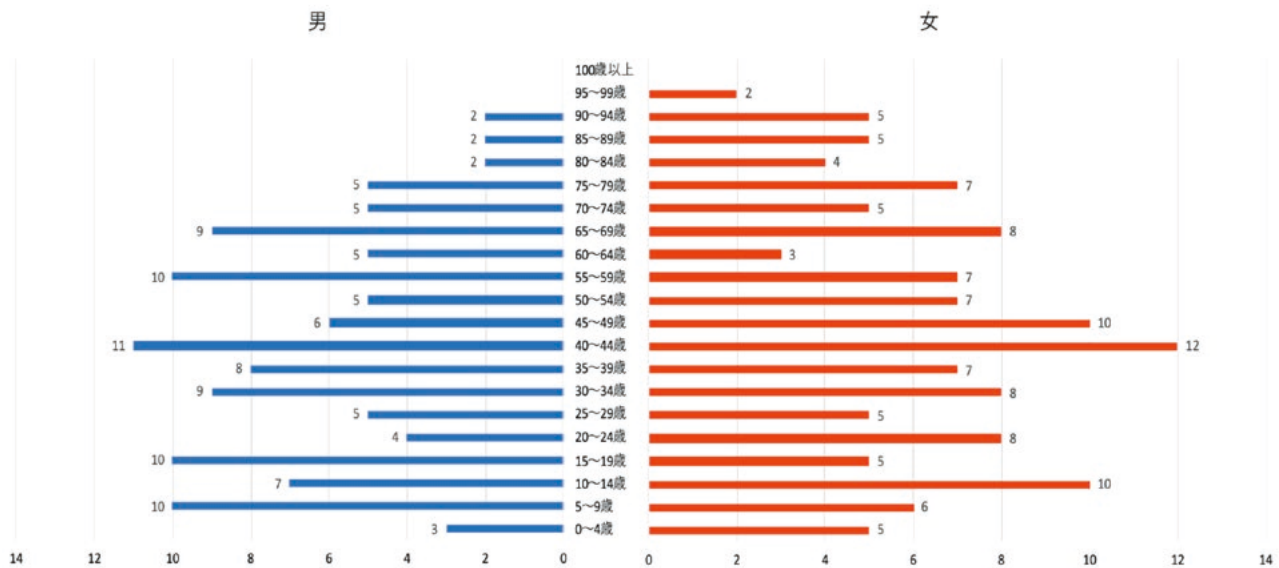
住民同士の“出会い”や“交流”の機会が奪われていく中、日々の小さな集いの場の積み重ねや、子どもや若い世代との出会いと交流の場づくりを続け、少しずつ新しい三俣町の絆ができていく。



三俣町自治会館



「みつまたの道路安心マップ」のスナップが額に入って自治会館に飾られている。



塚本町の人口ピラミッド

1. 自治会福祉活動の推進体制

「塚本町福祉推進委員会」は会長に自治会長、委員に民生委員・児童委員、福祉委員、評議員、住みよい町づくり推進委員、そして3名の福祉ボランティアで運営している。この福祉ボランティアは主にふれあいサロンのお手伝いをされている自主的なボランティアである。

なお、委員会は年度当初に1回開催している。

2. 自治会福祉活動の状況

1) 「お茶のみサロン」と「とんぼの集い」

「お茶のみサロン」は、65歳以上の方を対象に、塚本町会議所でほぼ月1回、午前の10時～12時頃まで開催している。参加されるのは80、90歳代の方々5～6人で、スタッフの民生委員・児童委員、福祉ボランティアを含めて10人程度で開催している。

折り紙や手芸が恒例のプログラムである。一番の人気は手芸の「干支づくり」で、この時のみ参加者から500円（ワンコイン）を材料代として頂く。すでに十二支が一巡（12年）した。

8月は恒例の子ども達との交流会（八幡神社でのグランドゴルフ）を計画していたが、新型コロナウイルスの感染拡大ピーク時となり開催を断念した。

「とんぼの集い」は75歳以上の方を対象に、年3回開催する20年以上も続いている集いの場であるが、ここ数年はコロナ禍で開催できていない。

ポイント

「お茶のみサロン」を、ほぼ月1回、午前で開催

人気の「干支づくり」

本年も6月と9月は「プラザ三方よし」で開催する計画であったが、コロナ禍で中止とし、その代わりに「とんぼの集い」のメンバーの方々35名全員に「ご機嫌伺い訪問」を実施した。自治会長、民生委員・児童委員、福祉委員、そして福祉ボランティア、計6名が3班に分かれ、手土産をもって訪問した。

「ご機嫌伺い訪問」を実施

2) 地蔵講、行者講～集いと文化継承

自主的な集いとしては、塚本地蔵堂で女性の「地蔵講（尼講）」と男性の「行者講」がある。地蔵講は年間6回（奇数月）、行者講は12回（毎月1回）営まれている。参加人数はいずれも10人未満であるが、コロナ禍といえどもほぼ予定通りに開かれ、集いの場であり塚本町の暮らしの文化を継承する営みでもある。



塚本村地蔵堂

3) 敬老会

コロナ禍で敬老会の活動はほぼ中断されている。本年も70歳以上の方47名に福祉推進委員会の訪問活動を兼ね、自治会からお祝いの紅白饅頭を配った。

4) ひとり暮らし高齢者の見守り

町内のひとり暮らしの方は11人であるが、敷地内同居や福祉施設利用の方もいて、このうち見守りが必要な方はそれほど多くなく、民生委員・児童委員がほぼ毎日見守っている。例えば、夜に家に明かりが点いていないことに気づいた時は電話で確認をする等、出来る範囲で見守りを行っている。

日頃の暮らしのなかでの見守り

5) いのちのバトン

自治会長が町内全戸を回り、各世帯に必要な救急医療情報用紙を配布した。

3. 若い世代とともに

塚本町の新興住宅には若い世代の人が入ってきていて、子どもも増えて活気がある。塚本町にもよく馴染んでいて、祭りには一番に来てくれている。しかし、コロナ禍でお祭りや地蔵盆での納涼模擬店等の住民同士が交流する場と機会がめっきり減った。令和4年は地蔵盆の開催を計画していたが、「第7波」で中止せざるを得なくなった。

コロナ禍で自治会の伝統行事や恒例のイベントが中止される期間が長くなると、これらを若い世代の住民に伝承していくことが難しくなる。

しかし、塚本町自治会には「相談役」をお願いしている方がいて、昔のこと、お祭りや伝統的な行事のことを教えてくださるので心強い。

年2回開催される自治会の総会の様子をみると世代交代が進んでいる。若い世代が自治会活動に根を下ろしつつあり、塚本町の文化の継承と新しい文化を創り出す担い手となるに違いない。

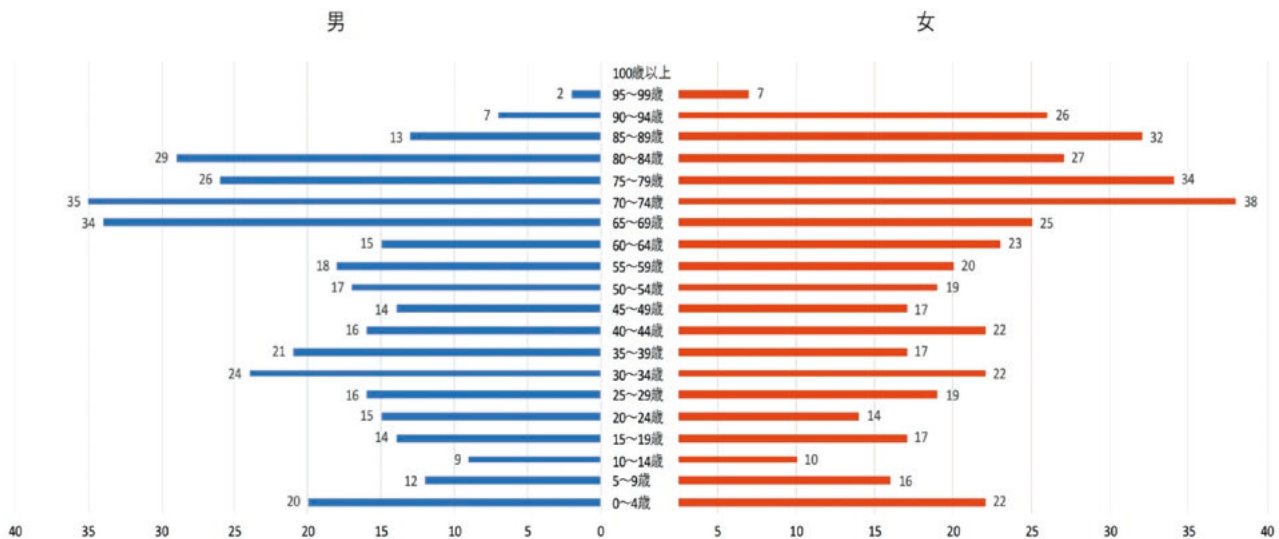


塚本町自治会館



お茶のみサロンの様子（令和2年11月）

◆人口：785人（男性357人・女性428人）
 ◆世帯数：372世帯（外国籍、複数国籍世帯含む）
 ◆高齢化率：42.8% ◆年少人口比率：11.3%
 （令和4（2022）年5月31日 東近江市市民課）※施設入所の方を含む



川並町の人口ピラミッド

1. 自治会福祉活動の推進体制

「福祉推進委員会」（自治会長（委員長）、副自治会長（福祉委員）、民生委員・児童委員）と「住みよい川並づくり推進会議」（正副自治会長、各種団体長、健康推進員）が合同で自治会福祉活動を推進している。

※昭和56年に「大字川並福祉推進委員会」が発足し、平成元年には「住みよい川並づくり推進会議」が発足し、福祉事業を合同で進めていくこととなった。

2. 自治会福祉活動の状況

1) ふれあいサロン、ミニふれあいサロン

「住みよい川並づくり推進会議」（以下「推進会議」）がその年度内に満80歳以上になる方と75歳以上のひとり暮らし高齢者の方を対象として開催している。令和4年度は、「ふれあいサロン」を2回、「ミニふれあいサロン」を4回、計6回の開催である。5月に開催する予定であった「ふれあいサロン」はコロナ禍により、代替として「推進会議」の役員が「見守りふれあい訪問」を実施した。

「ミニふれあいサロン」は、健康推進員による体操や骨密度の測定（7月）、「ふれあいスポーツ大会」との併催（10月）、清水苑デイサービスセンター職員によるリハビリ体操、握力測定、脳トレ（11月）、養護老人ホームきぬがさ職員による体操（12月）。健康推進員は福祉委員と協働して活動している。

（なお、平成22年度～令和元年度まで「ふれあいサロン」を年2回、「ミニふれあいサロン」を年9～10回開催し、毎月開催であった。）

ポイント

ふれあいサロン
とミニふれあい
サロン

ミニふれあいサロン
(令和4年11月7日)

2) 住みよい川並づくり推進会議

一人ひとりの心がふれあう町づくり、青少年の育成、高齢者への福祉の充実、差別や偏見のない人権の尊重、そして恵まれた里山の自然を大切に健康づくり等を目的として活動している。組織は各種団体（子どもから老人の各種）と自治会担当役員の合同で構成されている。主な活動は、春秋の花いっぱい運動、納涼フェスティバル、ふれあいサロン、人権学習を実施している。

3) 敬老会

コロナ禍で敬老会は中止とした。その代わりに、評議員14名が分担して110名に記念品を配って回った。

4) 福祉支え合い活動

平成30年4月に「支え合い会議」を開始。基本的に3か月に1回開催している。(年4回)メンバーは自治会長、副自治会長、民生委員・児童委員、福祉委員、市社協地区担当職員、六心会職員(地域支援担当)。川並町の気になる所、子どもたちの通学時の交通安全等、気がかりな事について情報交換の場となっている。また、一人暮らしの高齢者宅への月1回の訪問も実施している。

5) いのちのバトン

回覧板を回して配布。川並町に新しく住まわれた方には、自治会の事務員がバトンと救急医療情報用紙を渡している。バトンが冷蔵庫に入っているかどうかまでは確認できていない。

子どもから高齢者までの多世代
ふれあい福祉



花いっぱい運動

訪問を通じて顔
の見える関係

3. コロナ禍での交流再開

自治会あげでの「納涼フェスティバル」、地藏盆の時の「六地藏めぐり」(スタンプラリー)もコロナ禍で3年間中止となっている。新しくできた住宅をはじめ、新しく川並町に転入してくる人がいるが、自治会全体での交流行事がなかなか開催できていなかった。

そのようななか、令和4年10月9日(日)に草の根広場で「ふれあいスポーツ大会」を開催した。140人が参加し、そのうちの約40人が新しくできた住宅の人たちであった。令和元年には109人の参加であったが、再開をしたところたくさんの参加があった。自治会での交流の場の再開、或いは新たな交流の場づくりへの期待の表れといえる。

“顔の見える”関係づくりには、やはり交流の場が欠かせない。

小学生の登下校の際の交通安全のために民生委員・児童委員が見守りを続けている。「おはよう」と声をかけても返事を返してくれない子どももいるが、ある時6年生の子どもが「見守りありがとう」という手紙を民生委員・児童委員に渡してくれた。嬉しい出来事であった。

ふれあいスポーツ大会に140人が参加



登校時の見守り



ふれあいスポーツ大会
(令和4年10月9日)

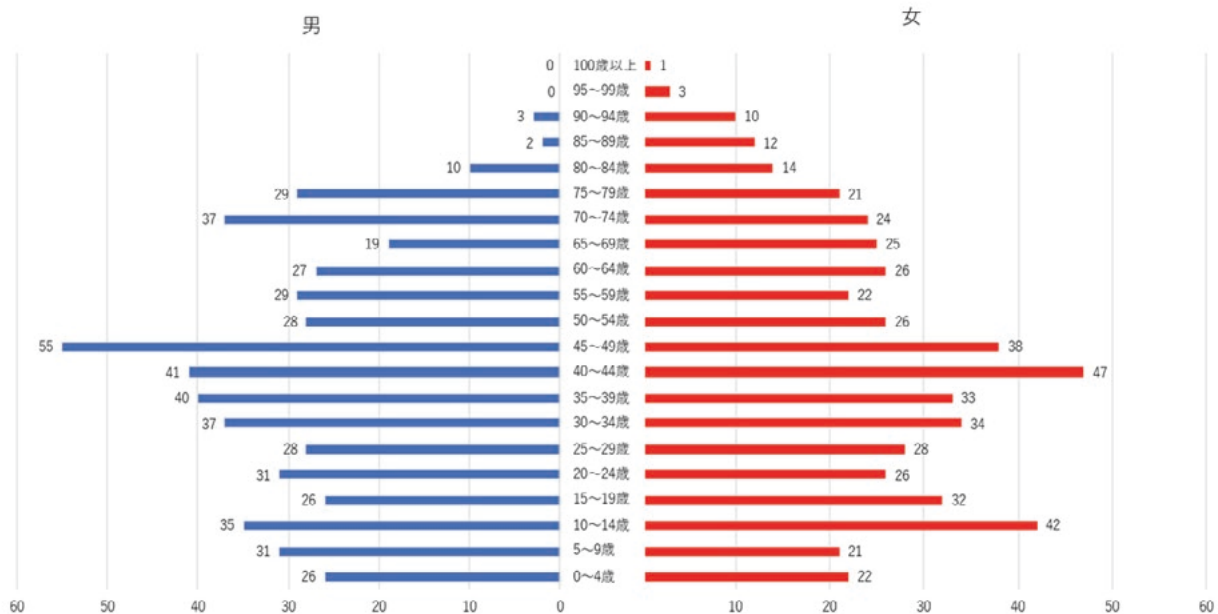


ふれあいスポーツ大会
(令和4年10月9日)



人権学習
(令和4年10月30日)

◆人口：856人（男性431人・女性425人）
 ◆世帯数：315世帯（外国籍・複数国籍4世帯含む）
 ◆高齢化率：24.2% ◆年少人口比率：16.1%
 （令和4（2022）年5月31日 東近江市市民課）



宮莊町の人口ピラミッド

1 自治会福祉活動の推進体制

自治会長、副自治会長、民生委員・児童委員、福祉委員（2名）が中心となって宮莊町の福祉活動を進めている。

福祉委員は正副自治会長が相談をして依頼する。任期は設けていないが概ね2年間福祉委員を担っている。世帯数も増加傾向にあり福祉委員を増員したいと考え、次年度は女性も福祉委員に依頼したいと考えている。

なお、自治会役員は他の町と同様選挙で選出されるが、世帯単位でなく18歳以上の人1人1票の選挙権がある。（選挙人名簿を作るのは一苦勞）

ポイント

福祉委員は正副自治会長が依頼。任期は設けていない。

2 自治会福祉活動の状況

1) ふれあいサロン

80歳以上の方を対象として年4回開催していたが、コロナ禍で中止をせざるを得なくなった。ただし、集う空間は開放しておきたいと思い、「公会堂の憩いの間でお茶を飲んでください」というPRをした。

2年前の秋、新型コロナウイルスの感染者数が下火傾向になったときに1回集う形で開催した。この時には、「ハリヨの里あれぢ」の工事の様子等、宮莊町の過去の活動を記録したビデオを観てもらった。

今年度も第1回目は、集うのではなく品物を配布した。対象は85人ほどである。きっかけがないと外にでないという方も多いため公会堂に集うふれあいサロンを令和4年10月に再開し、大変喜ばれた。

ふれあいサロンの再開



ふれあいサロンの看板

運営スタッフは、自治会長、副自治会長、民生委員・児童委員、福祉委員（2名）、評議員、女性ボランティア（旧女性会のメンバー）5人ほどが担った。

ふれあいサロンは、コロナ禍で2年間開催できていなかったため、若い評議員への継承の想いも込めて、今年度は全部やりたいと考えて段取りを進めている。



ふれあいサロンの
お弁当（持ち帰り）

2) 敬老会

開催する方向で進めていたが、台風接近のために中止とした。その代わりに、担当評議員14名が自分の組を中心に合計121名に記念品を配って回った。

3) 独居高齢者等見守り訪問活動

福祉委員2名が担当を決めて、毎月1回、合計9名に見守りの品をお届けして安否確認をしている。できるだけ直接出会って話をして手渡すようにしている。朝に訪問して留守の場合は、見守りの品をポストに入れて、夕方に再び確認のために訪問するようにしている。対象者の皆さんはお元気であり、月1回の訪問を喜んでくださっている。

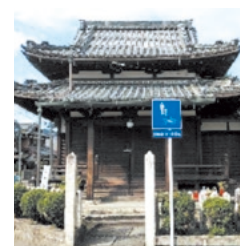
留守の場合は夕方に安否確認を兼ねて再訪問

4) いのちのバトン

各家庭に救急医療情報用紙が何枚必要かを聞いて、組長宛てに配って情報の更新をすすめている。

3 「できること」を考える

自治会半公認のゴルフクラブがあり、年4回ゴルフをしている。毎回13～15人が参加している。25年間続いていて、その回数も100回を超えた。自治会公認のグラウンドゴルフも毎週木曜日に開催していて、グラウンドの草刈りもしてもらっている。自治会所有の大日堂は、住民のボランティアが障子の張替え等の維持管理をしている。



大日堂

一方、老人会はなくなった。婦人会の活動は中断しているが、好き寄りで7つほどのグループで活動をしていて女性が集う場は続いている。

町あげでの集いの場は、コロナ禍で中止が続いている。「宮荘フェスタ」は「スポーツの日」前後に中学生全員にお手伝いをしてもらう宮荘町をあげでのフェスティバルであるが、コロナ禍で3年間開催できていない。80人で「わがまち一番」の大神輿を担ぐ例大祭も3年間開催できていなく、神輿の飾り付けの継承も難しくなっている。2年ぶりに開催したふれあいサロンのように、「できること」を考え実行するのが宮荘町である。

付記：ゴミ出しのこと；近隣が協力しあう雰囲気

大型ごみの回収は自治会で協力をしているものの、メインとなるダストピットは1か所の集中管理をしているので、ダストピットから離れている高齢者世帯となるとゴミ出しが大変である。近隣が協力してゴミ出しをしているところもあり、このような雰囲気が広がっていけばと考えている。



ふれあいサロンの様子
（正面は演者）
（令和4年10月22日）

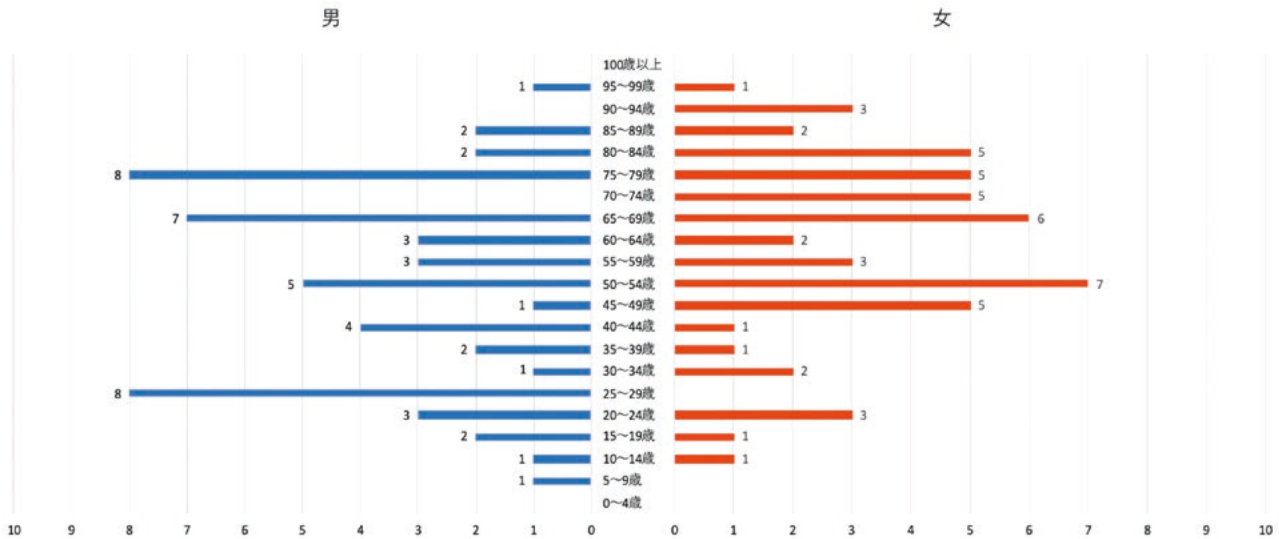


ふれあいサロンの様子
（福祉委員の健康体操）
（令和4年10月22日）



ふれあいサロンの様子
（ビンゴゲーム）
（令和4年12月17日）

◆人口：107人（男性54人・女性53人）
 ◆世帯数：50世帯（外国籍・複数国籍8世帯含む）
 ◆高齢化率：43.9% ◆年少人口比率：2.8%
 （令和4（2022）年5月31日 東近江市市民課）



和田町の人口ピラミッド

1 自治会福祉活動の推進体制

自治会長、副自治会長、民生委員・児童委員、福祉委員（2名）が中心となって和田町の福祉活動を進めている。

民生委員・児童委員を退任後、福祉委員として活動している。

2 自治会福祉活動の状況

1) ふれあいサロン（自治会主催）

ふれあいサロンは年6～7回開催する予定をしていたが、コロナ禍により中止した。しかし、状況を見ながら12月の「クリスマス会」は開催し、恒例の野菜の競り市やゲームを楽しみたいと考えていたが、残念ながら中止になってしまった。

2) 喜楽会（きらくかい）（ボランティアサークル）

60歳以上の方が11～12名、毎月1回和田町公会堂に自主的に集い、2時間ほど体操やゲーム等を行っているボランティアサークルである。

活動を始めて3年～4年になる。月に1回メンバー同士が顔を合わせるので、みんな喜んでいる。リーダーはいるがリーダー任せではなく、メンバーが毎月当番制にして活動をしている。

自治会では、公会堂の使用料を免除したり、お菓子代を出したりして喜楽会の活動を支援している。

男性の参加は少ないものの、コロナ禍でも途切れず継続している。

3) 敬老会（自治会主催）

ポイント

ボランティア
サークルで月1
回集う

公会堂使用料の
免除、お菓子代
の提供等で自治
会が支援

コロナ禍で敬老会は中止とした。その代わりに、自治会長と民生委員・児童委員が対象者34人に紅白饅頭と記念品（商品券1,000円）を持って、配って回った。配る日時は事前に全員に通知をしている。

4) 寿会（老人会）

グラウンドゴルフを毎月1日と15日に開催していて、7名位は参加している。また、観音堂を年3～4回掃除している。役員は70歳代、80歳代の方が務めている。入会は任意でもあり、今後の役員のなり手不足が懸念されている。

寿会がグラウンドゴルフと観音堂を清掃

5) 独居高齢者等見守り訪問活動

民生委員・児童委員が中心となって、毎月1回9名に見守りの品をお届けし、安否確認をしている。

6) いのちのバトン

いのちのバトンの救急医療情報用紙の更新は、組ごとに回覧板で周知している。

いのちのバトンは回覧板で周知

3 小さな自治会の強みと悩み

和田町の高齢化率は43.9%と最も高く、年少人口比率は2.8%と最も低い。小学生は3人で、2人が6年生。来年度には小学生は1人となる。

町内のつながりは強く、日頃から顔の見える関係であるから、行事で顔が見えないと「今日は病院か？」という話になるという。ゴミ出しに困ったときには助け合える関係性がある。

先日、畑作業をしていた方が、脚をケガして倒れていた。日頃の和田町でのつながりが幸いして、発見が早く大事に至らなかったという。

課題は自治会役員のなり手不足と高齢化である。

自治会役員は、会長、副会長、評議員3名を選挙で選ぶ。^{※1}

自治会加入39世帯^{※2}で町内は4組ある。近年、県外から転入してくる人もいて新しい家は15～16軒あるが、新しい家の多い組と、ほとんど高齢者世帯の組もあるため、組によっては役員に同じ方が選出されてしまう。

また、60歳を過ぎても仕事をしている人が多いので、以前に比べて自治会の役員として活動できる年齢層も高くならざるを得ない。

その結果、役員は同じような顔ぶれになってしまう。一度自治会長になると翌年以降3年間は免除される。そして、4回自治会長になると免除されるルールとなっている。現に自治会長の免除対象の人が3～4人いるが、今後はこのルールも適用できなくなる虞があるという。

和田山に纏わる歴史的な遺産を継承し、護り続けている和田町。

和田町の自治会福祉活動を、どのように持続可能な形にしていくのかは、和田町のみならず、五個荘地区全体の課題でもある。



喜楽会での体操の様子（令和4年10月17日）



南瓜をハロウィン風に（令和4年10月17日）

※1 令和5年からは副自治会長が次の自治会長に就任するルールとなるので、副会長と評議員（3名）を選挙で選ぶ。

※2 東近江市の世帯数・人口統計表上は、総世帯は50世帯。

五個荘地区住民福祉協議会 委員名簿（令和4年度）

代表 深尾 浄信

※五十音順・敬称略

<「人財を育もう」チーム>

	氏名	所属
1	上田 祐子	東近江市社会福祉協議会 地域福祉課係長
2	河村 栄一	五個荘地区社会福祉協議会 広報部長 五個荘地区まちづくり協議会 運営委員
3	篠原 玲子	五個荘地区まちづくり協議会 運営委員
4	堤 洋三	社会福祉法人 六心会 理事長
5	野々目 良一	～暮らしのお手伝い～ほっとハート五個荘代表
6	林 留奈	地域住民（保健師/東近江市保健センター）
7	溝江 麻衣子	地域住民（東近江市健康福祉政策課）
8	安居 詩帆	地域住民（東近江市市民課）

<「場を創ろう」チーム>

	氏名	所属
1	池尻 雅	東近江市社会福祉協議会 地域福祉課主事
2	石田 富生枝	子育てスタジオPIECE 代表
3	猪田 耕平	地域住民（保健師/東近江市地域包括支援センター）
4	大橋 久子	地域住民（介護予防運動指導員・リズム体操指導員・介護福祉士）
5	木村 光男	五個荘地区社会福祉協議会 理事
6	佐々木 律子	ボランティア
7	関 菊世	正福寺サラナ親子教室 代表
8	宮川 和彦	てんびん倶楽部（養護老人ホームきぬがさ 所長）
9	細居 悦子	五個荘地区まちづくり協議会 運営委員
10	吉居 崇司	五個荘地区まちづくり協議会 副会長

<「しくみを創ろう」チーム>

	氏名	所属
1	市田 衛	五個荘地区社会福祉協議会 総務部会長
2	大橋 保治	五個荘地区まちづくり協議会 安心・安全部会長
3	川嶋 重剛	五個荘地区社会福祉協議会 事務局長
4	北川 友一	健康倶楽部ごかしょう 会長
5	小杉 勇	五個荘地区まちづくり協議会 会長
6	外村 俊夫	てんびん倶楽部（ケアプランセンター福来朗）
7	西 義一	五個荘地区民生委員児童委員協議会 会長
8	西村 貞之	五個荘地区社会福祉協議会 理事

【事務局】辻 薫・奥村 昭（社会福祉法人六心会 地域支援担当 地域支え合い推進員）

第3次五個荘地区住民福祉活動計画
【推進期間】令和4(2022)年度～令和8(2026)年度
だれもが人財 みんなで支えあうまち 五個荘

I ^{じんさい はぐく}
人財を育もう

1. 日ごろの声かけ、あいさつ運動をすすめよう
2. みんなが助け、助けられる人になろう
3. 多様性を認め合う学びをすすめよう
4. 「ちょっとお手伝い」の「輪」を広げよう
5. 「六心の訓」の普及・啓発をすすめよう

六心の訓

はい	…素直な心	私がします…奉仕の心
すみません…反省の心	どうぞ	…互譲の心
ありがとう…感謝の心	おかげさまで…謙虚な心	

II ^{ば つく}
場を創ろう

1. 気軽に集える居場所づくりをすすめよう
2. 情報の交換・共有の場づくりをすすめよう
3. 赤ちゃんからお年寄りまで交流できる場づくりをすすめよう
4. 子どもや若い世代が地域で活動できる場づくりをすすめよう
5. 誰もが参加できる場づくりをすすめよう

II ^{つく}
しくみを創ろう

1. 得意なことを地域に活かせるしくみを創ろう
2. 住民同士の助け合いのしくみを充実させよう
3. 自治会福祉委員会の活動を推進しよう
4. 「互近助(ごきんじょ)」で災害時に助け合うしくみづくりをすすめよう
5. 「いのちのバトン」で緊急時への備えをしよう



人は財 まちの財
自治会福祉活動事例集 (part.2)

【発行】令和5(2023)年3月

五個荘地区住民福祉会議

代表 深尾浄信

URL : <http://gokashofukushi.com/>

所在地 〒529-1422 滋賀県東近江市五個荘小幡町318番地
五個荘コミュニティセンター内

事務局 社会福祉法人六心会
〒529-1441 滋賀県東近江市五個荘川並町268番地
特別養護老人ホーム清水苑内

TEL : 0748-48-5000 FAX : 0748-48-6100

題字揮毫 深尾浄量 デザイン 堤洋三 イラスト 溝江麻衣子

この冊子は、「東近江市生活支援体制整備事業第2層協議体運営業務」の委託を受け作成しました。



<http://gokashofukushi.com/>

令和 5(2023)年 3月